

豊かな言葉をはぐくむ 親子のかかわり



可愛らしい小さなお子様も、日々成長され、すぐに学校へ行く年齢となります。

教育は、学校に上がってからするものと思われていませんか？

実は学校に上がるまでの、今がとても大事な時期なのです。

大事なお子さんですから、将来にわたって健康で、優しく育てほしいですね。そして、たくましく人生を切り拓いていく社会人として育てほしいですね。

家庭教育（子育て）は全ての教育の出発点といわれています。

日々の家庭生活の中で、言葉やコミュニケーション能力、基本的な生活習慣や豊かな情操、命の大切さ、思いやる心、社会生活を営むルールやマナーなどを身に付けていきます。

家庭は、子どもの人格形成に大きな役割を担っています。

このリーフレットをもとに、お子様の健やかな成長に向けて、是非ご家族で話し合ってください。



1 言葉について

言葉は、外言語（声をかける）と内言語（考える 行動や感情を調整する）の2種類あります。

言葉をはぐくむには、耳で聞き、目で見、周りの人から刺激を受けることで反応を返し、言葉を獲得していきます。

言葉を使うときには言い方が大きく作用します。

単語が持つ意味以外の感情や状況が付いて回っているために、言葉は人と会話をすることでしかはぐくまれないといっても過言ではありません。

2 年齢に応じた働きかけ

○ 乳児期

- ・ 自ら話すことはできませんが、親（養育者）が発した言葉とそのときの状況（表情）を、脳にインプットしています。

子どもの気持ちを察して語りかけたり、養育者がしようとしていることなどを言葉にして語りかけたり、あやしたりします。

「おなかがすいたのかな？ ミルクをあげようね」

「おなかがいっぱいになったかなあ」



○ 喃語の時期

- ・ 子どものしぐさから、言いたいであろうことを予測して言葉にするようにします。

「おしっこ出ていないか、見てみようね？」

「あっ、やっぱり出てたから、きもち悪かったんだね」

「ほーら、気持ちよくなったよ」



○ 一語文の時期

- ・ その時、その場にふさわしい内容を文章化して語りかけ、共感するようにします。

例えば「パピ」の一語に、伝えたいいろいろな内容があります。

その時その場にふさわしい内容を文章化して語りかけ、共感するようにします。

「パピ、パピ」

「うん、パピはお仕事に行くよ。パピ、行ってらっしゃーい」

「パピ、パピ」

「うん、パピ、早く帰ってきてねえー」

○ 二語文の時期

- ・ 「これなあに？」など質問も多くなります。面倒がらずに対応を工夫し、会話を楽しむようにします。

○ 幼児期

- ・ 多くのことが言葉で理解できるようになります。
言葉で自分の行動や感情を抑制できるようになりますが、大人の調整が必要な時期です。
- ・ 「やめなさい」と怒るだけではなく、どのように友だちと交渉したらよいか、どのように自分をコントロールしなくてはならないかなどを、「言葉」で示すようにします。



「〇〇ちゃんは、そのおもちゃで遊びたいんだね」

「ぼくも、そのおもちゃで遊びたいんだね。どうする？」

「いっぱい使っていたから、順番に使うようにしたらどうかな？」

「よく我慢ができたね。えらいね」

- ・ 「すごい！」ではなく、具体的に言葉で表現するようにします。
- ・ 正しい表現方法を伝えるようにします。
「でんちゃ、きた」「あっ、本当だ。でんしゃが来たね」
他にも「大きい／小さい」「高い／低い」「遠い／近い」「深い／浅い」
「1軒」「1羽」「1頭」など、正しい表現方法を伝えるようにします。
- ・ おあしすの挨拶を身に付させるようにします。
お：おはようございます（こんにちは、おやすみなど）
あ：ありがとう
し：しつれいします
す：すみません（ごめんなさい）
※ 日常的に家庭内であいさつを交わすことで、
お子さんも自然とできるようになります。



3 言葉をはぐくむ、豊かな環境を

食事の時にはテレビを消すなど、楽しい会話が生まれるようにしましょう。
会話をすることで、豊かな言葉とともに思考力もはぐくまれます。

4 ていねいな言葉が使えるように

相手や、その場に合ったていねいな言葉が使えるように、マナーや礼儀とともに日常的に教えるようにしましょう。「言葉づかい」は、「心づかい」です。

5 お子さんとの対応で留意することは

自分の意見が言える子に育てるために、以下の点に留意しましょう。

- ① 子どもの考える時間を、奪わないようにする。
- ② 親は、先回りをして話さないようにする。
- ③ 考えを引きだすような話しかけを、心がける。
- ④ 子どもの話を、真剣に聞くようにする。
- ⑤ 親の考えを、押し付けないようにする。

※ 「早く寝なさい」など、指示命令や質問だけに終始することのないようにしましょう。



6 遊びをとおして言葉をはぐくむようにする

- (1) 絵本の読み聞かせ
- (2) 楽しく話しながら遊ぶ

※ 無理に教え込むのではなく、楽しく、自然に身に付くように接することが大事です。



7 その他、大事にしたいこと

- (1) 明るく楽しい、笑顔あふれる家庭をつくりましょう。
- (2) 基本的な生活習慣を身に付けさせましょう。

特に乳幼児期の睡眠不足は、脳や体の発達に影響します。また、夜間の照明は、体内時計を狂わせる恐れがあります。

大人の生活時間に合わせることなく、就寝前は部屋を暗くするなど工夫し、お子さんを早く寝かせるようにしましょう。

「寝る子は育つ」「早寝早起き」です。

- (3) 「他者とかかわることが楽しい」体験をさせましょう。

乳幼児期に、他者とかかわって楽しいという体験をすることで、コミュニケーション能力がはぐくまれます。

親子の関係を深めることも大切ですが、それと同様に、多くの子ども（人）とかかわり合って育てることが大切です。

- (4) ムズかる子どもに子育てアプリの画面で応えることは、子どもの育ちをゆがめる可能性があります。日本小児科医会からは、スマホに子守りをさせることの危険性が指摘されています。

